



「あすなろ」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

「ふるまいの根」は見えないところで育つ

2学年主任 樋口 真理子

4月に学年のKPIとして示した最後の項目が、「生活習慣・人間的要素（ふるまいの根）」です。

学力や進路実現については、点数や結果として目に見えやすいものです。しかし、本当に大切なのは、その土台となる見えない部分です。植物が大きく育つために根が必要なように、人も見えない部分が成長してこそ、大きな力を発揮できます。最近、学年内でいくつか気になる報告がありました。授業中の態度、グループワークでの振る舞い、小テストへの向き合い方、教室環境、先生との連絡の仕方などです。どれも多くの生徒が行っている重大な問題というわけではなく、一部の生徒によるものです。しかし、その「一部」の行動によって、学年全体がそのような集団だと見られてしまうことがあります。

モラルとは、「誰かに見られているから守るもの」ではありません。誰も見ていないときにどんな行動を選ぶか。自分の都合だけでなく、周囲への影響まで考えられるか。そこに人としての成熟が表れます。高校2年生は、学校生活にも慣れ、中だるみが起こりやすい時期です。だからこそ今、自分の行動を振り返ってほしいと思います。「これくらいならいいだろう」という積み重ねで根を浅くするのか、「自分たちの学年をよくしたい」という行動で根を深くするのか。

夏休みは自由な時間が増えるからこそ、自分自身のふるまいが試されます。学年テーマである「種を蒔き、根をはる」の“根”を育てる夏にしてほしいと思います。学力は目に見える力ですが、信頼は日々のふるまいから生まれます。そして、その信頼こそが、自分の進路を支える大切な根になるのだと思います。

7・8月の主な行事予定

- 7月21日(火) 前期中間試験、大掃除(安全点検)
- 7月22日(水) 前期中間試験、納め式、全校集会
(7/23~8/19 夏季休業)
- 22日(水)~25日(土) 理数コース宿泊学習会
- 23日(木)~28日(火) 登校学習会
- 8月6日(木) エネルギー教育〈黒部ダム見学〉(希望者)
- 6日(木)・7日(金) English Camp in iCLA (希望者)
- 13日(木)~15日(土) 完全閉庁日
- 16日(日) 全統記述模試
- 17日(月) 夏期講座
- 18日(火) 夏期講座
- 19日(水) 夏期講座
- 20日(木) ①大掃除 ②~④5分短縮授業 ⑤⑥授業カット 漢字検定(希望者)
- 22日(土) 土曜活用事業 学校見学会・理数コース説明会(中学生対象)
- 27日(木) 第2回定期試験時間割発表(学習強化週間スタート)
- 28日(金) ④立会演説会, ⑤投票, (⑥開票)





【2学年リレー通信】

「完璧主義」と「完了主義」

2年2組担任 谷戸 悠紀

今年度の私のテーマは「脱完璧主義」。2年2組のクラス企画でタイトル名にしてくれたことから、知っている方もいるかもしれません。

では、そもそも完璧主義とはなんでしょうか。特定の作品やタスクに対して、完全なクオリティの仕事を目指すことです。そして完璧主義自体は悪ではありません。まず、学問を究めることは本質的に完璧主義です。何かを理解する時には、一部分でも抜けがあると、それが重要なピースであるということがよくあります。また探究活動は、終わりなき問いを繰り返し続けるという意味で、完璧主義のもと行われるものでもあります（そして完成することはない）。仕事においても完璧主義が求められる場面があります。たとえば鉄道の運行のように、安全のために絶対にミスが許されない仕事に、完璧主義は不可欠です。また芸術分野でも、傑作と呼ばれるものは完璧主義のアーティストのもとに作られていることも多いです。

一方で、完璧主義には落とし穴があります。3つ挙げます。

1. 極端な完璧主義者ほど全く仕事の手についていないことがある（私です）。一見完璧には程遠いように見えますが、私たちの中では「完璧にできないならやりたくない」という思考が生まれることがあります。その結果、動き出すのに莫大なエネルギーを使う必要があり、何もできないのです。0-100思考というやつです。明らかに0点よりも60点、いや40点ですらやらないよりはいいのに、完璧へのこだわりがそれをさせてくれません。
2. そもそも「完璧」の定義は自分が決めている（私です）。極端な完璧主義者は、その完璧の定義を自分自身で設定していて、他の人から見ると「やって欲しいのは全然違う箇所」ということがままあります。特に締切ギリギリに、自分では完璧だと思って提出した仕事が、実は全然求められているものではなかった場合、修正は不可能です……。
3. ウォーターフォール思考の罠。完成の目標を定めて、それに向かって段取りを決め、計画を立てて進んでいく。これをウォーターフォール思考といいます。つまり「計画性」というもので、大切なスキルではありますが、「計画を実行している間に社会の方が変化してしまっていて、時代に合わないものが完成する」リスクもはらみます。

私自身、これらの完璧主義の罠に長年苦しんできました。そこで最近はいわゆる「アジャイル思考」をなんとか取り入れようと試みています。すなわち、まずはとにかくやってみる。下書きとして20点くらいのクオリティでいいから、「より早く」「完成」させることを第一にする。完成したら周りに見せる。そして客観的な意見をもらう。これを繰り返して40点→60点としていき、関係者が納得したら完了とする（自分を完了の基準にしない）。このように柔軟で失敗を恐れない、さしずめ「完了主義」ともいえる思考法です。

もちろん学校では仕事と学びは違いますし、アジャイル思考がそのままできないことも多くあります。それでも、なかなか課題が手につかない人、やりたいことはあるのになんかできない人は、一度やってみて欲しいです。脱完璧主義を目指したい人は谷戸のところにいらっしやい〜。一緒に頑張ろう！

